

1980年

特別展「街の生きものたち」

7月22日(火)~8月30日(土)

特別展示室 入場無料

タンボボ・ツバメ・アシナガバチなど身近な街
の生きものたちにスポットをあて、都市化が進ん

だ平塚で、彼らがどんな暮らしをしているか紹介
します。

☆記念講演会

8月5日火午後2時~ 講堂

「街の自然と私たち」

柴田樹隆氏(山階鳥類研究所資料室)

参加自由

☆セミのぬけがらを届けてください

特別展の会場に大きな地図を展示します。この
地図に平塚のセミのぬけがらをはりつけ、どの地
区にどんな種類が多いか調べていきたいと思いま
す。ぬけがらを見つけた人は、見つけた場所と名
前を書いたメモと一緒にポリ袋に入れ、博物館の
受付に届けてください。あなたの名前と一緒に地
図に展示します。



夏期特別展「街の生きものたち」

8月30日(土)まで

図録発売中 1冊500円

☆セミのぬけがらを届けてください

特別展の会場に大きな地図を展示します。この地図に平塚のセミのぬけがらをはりつけ、どの地区にどんな種類が多いか調べていきたいと思います。ぬけがらを見つけた人は、見つけた場所と名前を書いたメモと一緒にポリ袋に入れ、博物館の受付に届けてください。あなたの名前と一緒に地図に展示します。

受付にてお求めください。

☆記念講演会

8月5日(火)午後2時~

講堂

「街の自然と私たち」

柴田敏隆氏(山階鳥類研究所資料室)

参加自由

平塚のアシナガバチ

特別展「街の生きものたち」より

●アシナガバチの生活

軒下によく巣を作るアシナガバチは、数多いハチの種類の中でも、もっとも身近なハチといえるでしょう。後足をだらんと下げる、草や木の間を飛んでいる姿もよく目にきます。さて、彼らアシナガバチはどんな一年を送っているのでしょうか。

春になると、冬の間を物影にひそんで過ごしていた女王蜂が現われ、一匹で巣を作り始めます。女王は巣に卵をうみ、かえった幼虫には餌を運び巣もだんだん大きくなっています。やがてかえった娘蜂は働き蜂となり、生まれた巣にとどまって巣作り、餌運びなどの仕事につくようになります。その頃には女王蜂はもっぱら卵をうむだけを仕事とするようになり、巣は働き蜂の力でどんどん大きくなっています。フタモンアシナガバチでは巣房（巣の六角形の部屋）の数が500をこえることも珍しくありません。

アシナガバチの餌は主にチョウやガの幼虫で、とらえた餌はその場で引きさき“肉だんご”的にして巣に運びます。

秋になると、巣からは新しい女王蜂と雄蜂が生まれ、一年間の活動も終わりになります。巣は捨てられ、新しい女王蜂だけが次の年に備えて、冬越しに入ります。

●都市化とアシナガバチ

普通、アシナガバチと呼ばれているハチには、多くの種類が含まれていますが、本州にすんでいるのは、セグロ・フタモン・キボシ・ヤマト・キ・コの6種類です。これらの中には、樹木の多い環境を好むものと、開けた環境を好むものがあり、都市化が進んで緑が少なくなると、すんでいるアシナガバチの種類が少なくなると考えられます。神戸市などで調査された例では、山すそでは6種類全部が見られるのに対し、都市部ではセグロ・フタモンの2種類だけになり、さらに工場地帯では1種類も見られない地域もありました。つまりアシナガバチが何種類見られるかということが、その地域の緑の指標になるというわけです。

フタモンアシナガバチ



また、アシナガバチの巣は、先の話からもわかるように、1匹の女王蜂から生まれた家族によって1年間の間に作られるものです。緑が多く、餌になる昆虫が豊富であれば、それだけ巣も大きく育つと考えることができます。巣の大きさも、別の意味での緑の指標と考えられるのです。

●平塚では……

以上のようなことから、平塚のアシナガバチについて調べ 都市化の進み具合を知りたいと考え、昨年の冬、新聞や広報を通して呼びかけ、アシナガバチの巣を集めてみました。200名以上の方の御協力があり、大小とりまぜ約600個の巣が集まりました。

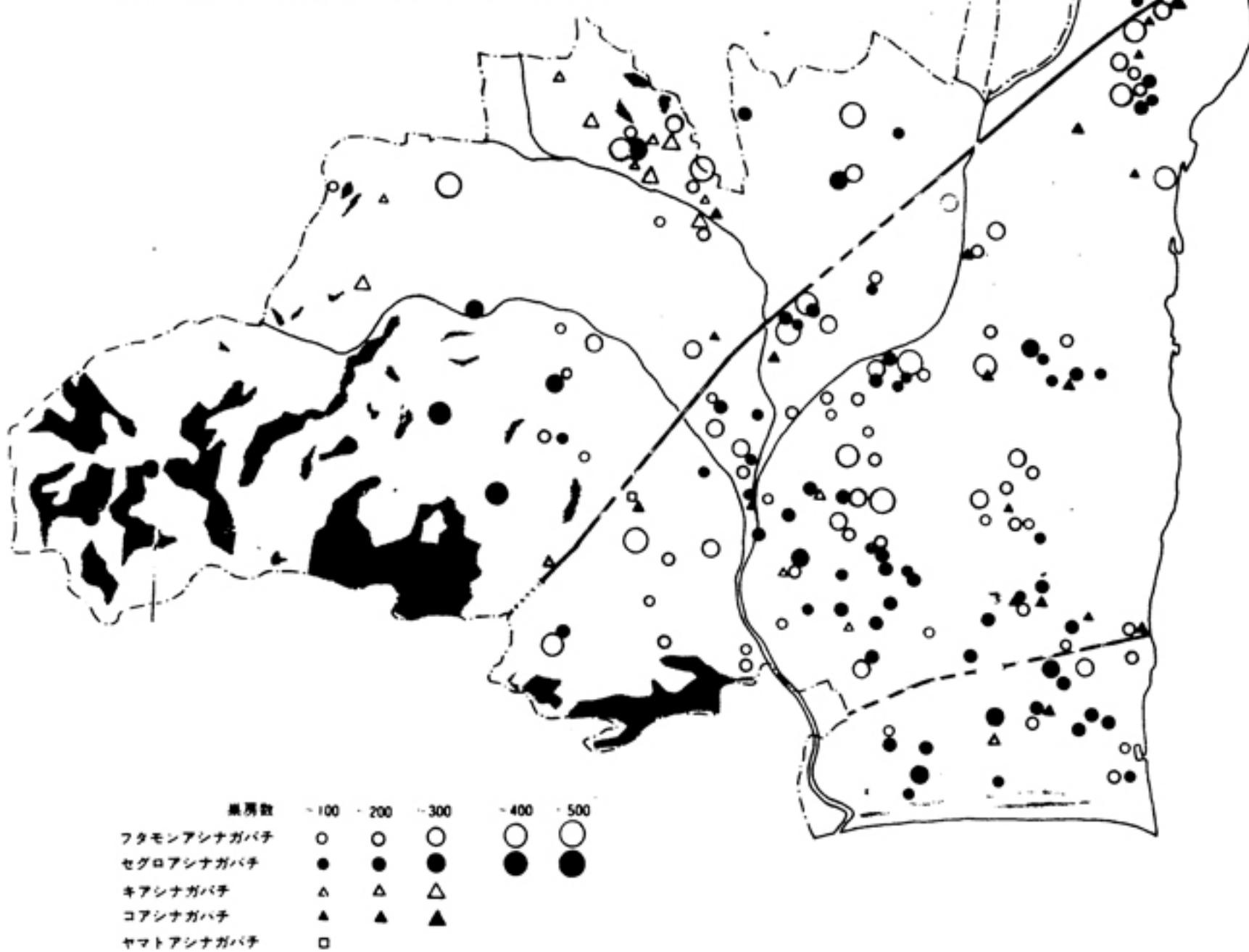
集まった巣を種類わけし、まゆのあとがある（働き蜂が巣立った）巣だけを選んで、巣房の数を数え、地図に現わしたのが、別図です。この図からどんなことがわかるでしょう。

まず市内で見つかったのはキボシアシナガバチを除く5種類で、またヤマトアシナガバチは旭地区でたった1個見つかりただけでした。またキアシナガバチは岡崎と金目で多く見つかり、市街地では少數でした。残りの3種類セグロ・フタモン・コは広く分布していることがわかりました。またセグロは、緑の多い住宅地に多く、一番市街化の進んだ所にも住んでいるのはフタモンと考えられました。

巣の大きさについては、不十分なことしかわかりませんでしたが、土沢地区から届けられたセグロの巣は、300個以上の巣房のものが見られ、環境のよい所では巣が大きくなる一つの証拠といえるでしょう。

今回の調査では、特に西部丘陵地から十分な資料が集まらなかったため、市内の分布をはっきり説明できるところまではいきませんでした。今冬、もう一度調べて、まとめをしてみるつもりです。皆さんも今からハチの巣に気をつけておいて、冬になり親蜂がいなくなったら、博物館に届けてください。

● 平塚市内のアシナガバチの分布



最後になりましたが、御協力をいただいた皆さん、本当にありがとうございました。なお集まつた資料の一部は 現在開催中の夏期特別展「街の生きものたち」に展示しています。どうぞご覧ください。